

2023年2月7日

各 位

会社名 株式会社 テレビ東京ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 石川 一郎
 (コード番号: 9413 東証プライム)
 問合せ先責任者 経営企画局長 加藤 仁
 (Tel. 03-3587-3061)
<https://www.txhd.co.jp>

2023年3月期 通期業績予想及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年11月2日に公表しました2023年3月期 通期業績予想及び配当予想について、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

1. 2023年3月期 通期業績予想の修正 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想(A)	150,000	8,300	8,200	5,380	195.04
今回予想(B)	150,000	8,700	9,200	6,200	225.08
増減額(B)-(A)	-	400	1,000	820	-
増減率(%)	-	4.8	12.2	15.2	-
(参考)前期実績 (2022年3月期)	148,070	8,584	9,159	6,024	214.88

2. 業績予想修正の理由

当社は放送を軸に配信とアニメの3事業の相乗効果を発揮させてコンテンツの価値を最大化する「トライブリッド」と名付けた戦略を推進しています。23年3月期第3四半期(22年4-12月)連結業績は、放送事業から得られる収益は前年同期並みの水準を保ちつつ、アニメ・配信などライツ事業の収益を大きく伸ばすことができました。アニメは米国における商品化や中国・欧米での配信など海外部門が伸長したほか、配信は新作ドラマの国内配信権販売などが好調でした。その結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益とも過去最高となりました。第4四半期(23年1-3月)につきましても各事業とも好調が続く見通しで、23年3月期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の予想を上方修正します。今回見通しを据え置いた売上高も含め、いずれも過去最高を更新する見込みです。またガバナンス強化や資本効率の改善の観点から23年3月期中に政策保有株の一部を売却する予定です。

セグメント別の業績予想数値は本日公表しました「2023年3月期 第3四半期決算補足資料」に記載のとおりです。

3. 配当予想の修正

(1) 配当の内容

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想(A) (2022年11月2日予想)	—	45円	60円
今回修正予想(B)	—	65円 (普通配当 55円) (記念配当 10円)	80円 (普通配当 70円) (記念配当 10円)
当期実績	15円	—	—
(参考)前期実績 (2022年3月期)	15円	45円	60円

(2) 配当予想修正の理由

当社は、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた利益還元にも努めることを配当の基本方針としております。具体的には、1株当たり20円を下限とした安定配当に加えて、業績に応じた配当として、連結ベースで配当性向30%を目標にしております。

この配当方針のもと、2023年3月期の期末配当金は1株当たり45円を予定しておりましたが、本日公表の2023年3月期通期業績予想（連結）で親会社株主に帰属する当期純利益を過去最高の62億円に上方修正したことを踏まえ、様々なステークホルダーと成長の果実をわかちあう観点から株主還元を強化します。1株当たりの期末配当金を普通配当で10円増額するとともに、2024年にテレビ東京が開局60周年を迎えることから記念配当10円を加えて合計65円といたします。この結果、年間配当金は1株当たり80円となり、連結配当性向は35.5%となります。

また本日公表の自己株式取得枠の拡大と合わせた2023年3月期の総還元性向は50.0%となる見通しです。（最終的な決算内容および実際の買付価格等によって、配当性向や総還元性向は変動する可能性があります）

以 上

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大や経済活動の動向等により、大きく異なる可能性があります。